

# J A グループ宮城 災害復興ニュース ( 総合版 )

第 6 0 号

【平成 26 年 1 月 7 日 (火) 発行】  
発行：J A グループ宮城災害復興本部  
編集：J A 宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466  
E-mail：jataisaku@gmail.com

## 《目次》

1. 愛知財務・復興副大臣らに農業・復興関連予算の確保を要請
2. TPPは「脱退も辞さない覚悟で交渉を」県選出国議員に要請
3. 3・11 を語り合う。J Aみやぎ女性協と県漁協女性連が初の交流会
4. 林農相が亙理のイチゴ団地など視察
5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 28 次請求
6. J A 全農山形から今年も被災 J A に「啓翁桜」
7. J A 農機担当者連絡協議会と系統農機メーカー連絡協議会が義援金

### 1. 愛知財務・復興副大臣ら地元選出国議員に農業・復興関連予算の確保を要請

J A 宮城中央会の菅原章夫会長（県農協政治連盟会長）と佐藤純一常務は 12 月 11 日、東京都内で愛知治郎財務副大臣兼復興副大臣に、農業・復興関連予算の確保などを要請しました。東日本大震災からの復旧・復興はいまだ途上にあることから、復興交付金、東日本生産対策交付金の予算確保、工事入札不調等に係る支援強化なども要請しました。

愛知副大臣は「消費税増税に伴い、被災者向けの支援対策も重要な課題だ」と、地元宮城の復興支援を表明しました。

また、J A 宮城中央会と県農協政治連盟は、12 月 17 日には東京都内で、農業政策予算・震災復興関連対策等に関する J A 代表者要請・懇談会を東京都内で開きました。J A 組合長ら 24 人が上京し、将来展望の持てる予算の拡充・強化などを強く要請しました。

自民党の小野寺五典防衛大臣、伊藤信太郎、秋葉賢也、西村明宏の各議員、公明党の井上義久幹事長が本人出席しました。出席議員は

「現場が混乱しないよう、農家所得が減らないようにしていきたい」と要請に理解を示しました。



愛知副大臣に要請書を手渡す菅原会長



J A 代表者要請・懇談会で挨拶する菅原会長

## 2. TPPは「脱退も辞さない覚悟で交渉を」県選出国議員に要請

JA宮城中央会と県農協政治連盟は、12月3日、東京都内の国会議員会館を回り、県選出国議員にTPPの国会決議を遵守し、「脱退も辞さない」不退転の覚悟で交渉に臨むこと、十分な情報開示を行うことなどを強く要請しました。県農政連の佐藤政悦幹事長と中央会の佐藤純一常務らが要請書を手渡しました。

自民党の伊藤信太郎議員、土井亨国土交通大臣政務官、公明党の井上義久幹事長、民主党の櫻井充、郡和子議員が本人対応しました。各議員は「国会決議に反するような合意はありえない」などと、重要5品目を守ることを約束しました。

## 3. 3-11を語り合う。JAみやぎ女性協と県漁協女性連が初の交流会

JAみやぎ女性組織協議会と宮城県漁協女性部連絡協議会は12月10、11日、初めての交流会を気仙沼市本吉町で開きました。それぞれの活動内容や東日本大震災からの復興に向けた取り組みなどを語り合い、今後も継続して交流を深めることを確認しました。

JA女性協は八嶋洋子会長をはじめ委員11人、県漁協女性連は畠山悦子会長はじめ委員6人が参加しました。八嶋会長は「震災で改めて全国組織の力、絆の力を感じています」と語りました。県漁協女性連の畠山会長は「JAの皆さんの支援に改めて感謝したい。復興はまだまだ進んでいないが、JA女性協の皆さんと一緒に今後とも頑張っていきたい」と語りました。



JA女性協は県漁協女性連に『家の光』100部を贈りました

## 4. 林農相が亶理のイチゴ団地など視察

林芳正農相は12月27日、宮城県を訪れ、国の復興交付金などで建設した亶理町のイチゴ団地などを視察しました。腰をかがめずに収穫できる高設栽培のハウスを見た林農相は「まるで工場みたいだね」と感心。5カ所にあったものを1カ所に集約して完成したばかりのイチゴ選果場では「効率化が進み大変うれしく思う。今後も産地づくりを後押ししたい」と語りました。

案内したJAみやぎ亶理の岩佐國男組合長は「震災直後はこうなるとは思って



イチゴ選果場で岩佐組合長の説明を聞く林農相

いかなかった。おかげさまで“夢のイチゴ作り”ができます」と改めて国の支援に感謝しました。林農相は同日、仙台市東部も訪れ、海岸防災林の復興状況なども視察しました。

## 5. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第28次請求

ＪＡグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は12月20日、東電への第28次請求を3億2,600万円とすることを決め、12月25日に請求しました。内訳は廃用牛の価格下落等の損害が1億3,500万円、牧草の利用自粛等に係る損害が9,500万円など。

東電からは、12月に入ってから末日までに合計約32億円が入金され、12月末現在、同協議会の請求総額は301億400万円、受領総額は219億2,500万円で、請求対比73%となっています。

## 6. 全農山形から今年も被災ＪＡに「啓翁桜」

「少しでも和んだ気持ちで新年を迎えてください」と、全農山形から今年も、県内の被災5ＪＡと全農みやぎにひと足早い春の訪れを告げる「啓翁桜」が届きました。全農山形が震災復興支援として取り組んでいる「元気・笑顔プロジェクト」の一環です。

全農みやぎには、全農山形運営委員会の長澤豊会長らが訪れ、全農みやぎ運営委員会の菅原章夫会長に60本を贈りました。

被災した南三陸、いしのまき、仙台、名取岩沼、みやぎ亘理の5ＪＡにも30本ずつ届けられました。

山形県の名産「啓翁桜」は12月中旬から3月に満開になる桜として人気を集めています。



長澤会長から「啓翁桜」を受け取る菅原会長

## 7. 全農農機担当者連絡協議会と系統農機メーカー連絡協議会が義援金

宮城県全農農機担当者連絡協議会の小野寺幸記会長と宮城県系統農機メーカー連絡協議会の松田浩巳会長が12月12日、全農宮城中央会の菅原章夫会長を訪ね、「農業復興に役立ててください」と、チャリティーオークションなどの売上金を全農グループ宮城災害復興本部に贈りました。チャリティーオークションは11月に行った「全農グループ宮城担い手営農復興支援フェスタ2013in 宮城」で行いました。両協議会はこれまでも数回にわたり、義援金を贈っています。

以上